





(3)「佐渡の食文化の理解や継承・発展と感謝の心の育成」

「伝承」「感謝」「マナー」に関するウィッシュボトム

- ・家庭の味を作りだして、子供達が佐渡を離れた時思い出してくれたらいいね
- ・手作りのおいしさを伝えられたらいいね
- ・おばあちゃんから嫁(娘)へ孫へと佐渡の伝承料理を伝えられたらいいね
- ・お母さんが早く帰って来て台所に立つ時間が長かったらいいね
- ・食べ物への感謝の心を持てたらいいね
- ・食について考える(関心をもつ)人が増えるといいね
- ・食べ物を大切にすることができたらいいね
- ・食は生きるすべ、すべてにつながると思う。一人でも多くの人にわかってもらえるといい(やさしさ、きびしさ、たくましさ、にんたい)
- ・子ども達に料理教室等をとおして、作るよこびや食べものの重要性についておしえられるといい

現状	大切にしたいこと	目標・対応策
<p>食文化 コンビニエンスストアやファーストフードの普及で、子どもでもお金さえ出せばいつでも手軽に好きな物がたべられる。仕事を持つ女性が多く、食事作りに時間をかけられない家庭が多い。核家族ばかりでなく同居していても、親世代から子世代へ家庭の味が受け継がれる機会が少ない。冠婚葬祭などで隣近所が集まって郷土料理を作る機会が少なくなり、また様々な行事の衰退により、地域の味が受け継がれにくい。若者と一緒に料理することが少なく、家庭や地域で郷土料理を伝える機会がない。</p> <p>感謝 商店には食べ物があふれ、食べられることが当たり前という感覚から、感謝の気持ちが薄れてきている。子どもが農林漁業の体験や調理に携わる機会が少ないことから、食べ物への感謝の気持ちが育たない。給食を残す子が多く、食べ物が粗末にされている。食材の買い過ぎや食事の作り過ぎで、食べ物を粗末にすることがある。</p> <p>マナー 部活、習い事などで忙しく、家族揃った食事ができない子も多い。一人で食べていると食事のマナーも必要ないので、覚えられない。大人でもマナーが身につけていない人を見受けられる。</p>	<p>季節ごとの行事を大切に、郷土料理を伝承したい。</p>  <p>農林漁業や食品の生産過程を体験や見学できる機会があるとよい。子どもや男性も調理に参加して、食への関心、食べ物への感謝の気持ちを育てたい</p>  <p>いろいろな機会に子どもや若者と一緒の食事を通してマナーを伝えたい。各家庭で曜日を決めるなど、家族揃って食事できるように工夫したい。</p>	<p>1. 佐渡の食文化を知って伝える (個人) 各家庭で郷土料理をとり入れる。各家庭で年長者が子どもや若者に郷土料理を教える。自然の素材を利用した器を使う。佐渡の伝統工芸を体験して、自分で作った工芸品で食事をする。 (地域) 地域の集まりにみんなで郷土料理を作る。企業が郷土料理を売り込む。 (行政) 給食の献立や学校行事に郷土料理をとり入れる。地域の行事と料理、レシピを一緒にしたカレンダーを配布する。郷土料理の教室を開く。</p>  <p>2. 食への感謝の気持ちを持つ (個人) 「いただきます」「ごちそうさま」の習慣をつける。各家庭で野菜の栽培をする。子どもに料理を体験させる。食べ物を捨てない工夫をする。 (地域) 農林漁業を体験できる機会をつくる。生産現場を見学できる機会をつくる。自然と触れ合う機会をつくる。 (行政) 学校で食への感謝の気持ちを育てる。給食を残さない工夫をする。学校で農作業の体験をさせる。未経験者に農作業を指導する。</p>  <p>3. 食事のマナーを身につける (個人) 家族一緒の食事を通して年長者が子どもや若者にマナーを教える。 (地域) 地域の人が集まって食事する機会をつくる。世代間交流を通して若い世代に作法やそれに込められた意味を伝える。 (行政) 学校が給食だより等を利用してマナーを指導する。ケーブルテレビ等の媒体を利用して正しいマナーを普及する。マナー教室を開催する。</p>

< 重点施策 >

郷土料理のPRをする。

< 目 標 > 郷土料理集を作る